

“Ruby なら電車の中で思いついたアイデアをすぐに形にできる”

株式会社アールラーニング CTO 鈴木達也氏



会社名 株式会社アールラーニング

活用分野 勤怠管理システム

利用技術

Ruby on Rails,MySQL,Apache+Passenger,Redmine,jQuery,RSpec

開発会社 自社開発

ホームページ <http://www.r-learning.co.jp/>

ニーズおよび解決したかったこと

- ・取引先に常駐している社員が個別に作成する勤怠表を簡単に作れるようにしたかった
- ・管理部門が行う給与明細の郵送などの業務を省力化したかった
- ・限られた時間の中でシステムを開発したかった

Ruby 採用理由

- ・Ruby は柔軟に機能追加できる言語であり、小さな要件から始めて機能を追加していくのに向いていた
- ・Ruby on Rails ならば短いスパンで機能の追加からリリースまでを行うことが可能。
- ・社名の頭文字が R であること、コーポレートカラーが赤であることなどから縁を感じた。

Ruby 採用効果

- ・3 人月程度という少ない工数でサービスをリリースすることができた
- ・Ruby on Rails の高い拡張性のおかげで顧客の新しいニーズをすぐに実現できた
- ・Ruby on Rails による自社サービスを持っていることで Ruby による開発依頼が増加した

エンジニア達の思いから始まった勤怠管理システム「新月-SHINGETU」

社員達の自主的な呼びかけから始まった業務管理システム構築

「きっかけは Ruby で何か作りたいね、というアイデアからでした」と、株式会社アールラーニング（以下、アールラーニング）の CTO である鈴木達也氏は切り出した。アールラーニングは 70 人近い技術者を擁する SI 企業であり、いまや Ruby アソシエーション認定システムインテグレータに名を連ねているが、勤怠管理システム「新月-SHINGETU」（以下、「新月」）開発のきっかけとなったのは、2010 年当時流行していた Ruby on Rails でなにかを作りたいという、シンプルなモチベーションだった。

鈴木氏を含む社員達で自主的なグループを作り、新しいシステムを開発しようと意気投合したところで、早速社内の掲示板でアンケートを取るようになった。その結果、勤怠管理の煩雑さについての不満が多く集まった。SI 企業として顧客向けシステム開発に携わるアールラーニングでは、社員の多くがシステムの保守・運用のため、客先に常駐している。社員達は Excel などを利用して勤怠表を作成し、管理部門へ提出していた。管理部門もそれらの帳票を整理して集計するという作業を抱えており、給与明細も常駐先へ郵送しなくてはならない。この過程をなんとかして省力化できないか、という課題を多くの社員が共有していたのである。

エンジニアが数人集まれば、「新しい技術で何かを作ろう」と盛り上がるのはよくあることだが、その多くは立ち消えになってしまう。しかし、アールラーニングの「新月」は、エンジニアだけではなく、管理部門を含めたのべ 2,30 人の社員を巻き込む形で開発が進められていった。経営陣からも業務として認められ、空いた時間の中で開発を行うことの許可が出た。米国 Google には「20%ルール」と呼ばれる規則があり、業務時間の 20%を自由なプロジェクトに充てられることがよく知られているが、「新月」もそれと同様、自主的な意見によって開始されたプロジェクトだったのである。

細切れの時間でもコードを書ける Ruby on Rails の強み

20%ルールのとえを出したが、鈴木氏は「実際にはもっと少なかった」と言う。経営陣からの理解を得てはいたが、既存の顧客を軽視するわけにもいかず、空いている時間が多いわけでもない。実際の開発は 30 分や 1 時間といったごく短い時間を利用して行われた。

そんな状況において、Ruby の簡潔なコードと Ruby on Rails の洗練された開発手法が役に立った。

「Ruby だと、電車の中で思いついたアイデアとかを動く形にまで持っていくのが簡単なんですよ」と鈴木氏は言う。Ruby はその簡潔な文法のため、コードを書く量は少なく済む。また、Ruby on Rails ならば、豊富なライブラリによって、Web アプリケーションのモックアップを表示するまで僅かな労力で済んでしまう。電車の中で設計や機能の実現方法までを考えておき、僅かな空き時間を利用してコードを書くといった効率的な開発ができるのは Ruby on Rails ならではであった。

また、Ruby on Rails とセットで採用されることが多いアジャイル開発の手法も多いに役立った。「新月」の機能要件は細かなタスクに分割され、これまた Ruby on Rails 製のプロジェクト管理ツール Redmine にチケットとして登録されていく。空き時間を利用してその機能を完成させると、自動テストツールを走らせ、別の業務に取りかかる。次にコードを触るときには、テストの結果が出ており、問題がなければそのままチケットを終了する。こうした細かな開発サイクルを繰り返していくアジャイル開発の手法は、「新月」のように限られた時間を利用して素早く開発していくプロジェクトで最大の効果を発揮した。

Ruby による開発のメリットを最大化するのはプロジェクトの進め方である、と鈴木氏は考えている。要件定義を行い、詳細な設計を起こしてプログラミングを行っていく旧来型の手法の場合、Ruby を採用するメリットは他のオブジェクト指向言語と比べてそれほど大きくない。ただし、「新月」のようなシステムの全体像が明確になっていない状態で作り上げていくプロジェクトの場合、Ruby on Rails はその真価を発揮する。Java や C#, PHP といった様々なプログラミング言語での開発実績があるアールラーニング CTO としての考察である。

アイデアを実現するツールとしての Ruby

関わった人数は述べ 20 人程度だったが、実際に手を動かすエンジニアの工数は 3 人月程度というわずかな労力で「新月」は完成した。社内リリースを終えると、営業サイドから「新月」を売りたいという意見が出てくるようになった。元々は自分達が必要だからと作ったツールではあったが、「勤怠管理の負荷を軽減したい」という潜在的な需要はアールラーニングだけに限らない。やがて、「新月」は IT 業界向け勤怠管理 SaaS としてリリースされた。結果的にエンジニア達の「Ruby で何かを作りたい」という思いが Web サービスとして結実した形になる。

「Ruby で開発することになったのは偶然に近いんですよ」と鈴木氏は言う。「新月」以前にも Ruby on Rails による開発実績はあり、例えば 2008 年には株式会社ユーフィット（現

TIS 株式会社) のグループウェア「ナレジオン」を Ruby on Rails で開発している。「新月」プロジェクトが発足する前の 2010 年頃、業務で Ruby を使用していないエンジニアから「Ruby で何か作りたい」という要望が上がっていたこと、全社的に Ruby on Rails によるシステム開発に力を入れようと思いついてきたこと、そういった幾つもの偶然が重なった結果として、Ruby on Rails による自社サービスの開発が行われたのである。

鈴木氏によれば、社名に R が入っていることや、コーポレートカラーが赤であることなどから、「元々 Ruby 専門の SI 企業だったのでは」と質問されることが多いそうだが、これはすべて偶然である。ただし、そうした偶然に加えて、実際に「新月」プロジェクトが成功裏に終わったことで、アールラーニングは現在 Ruby によるシステム開発に注力している。コミュニティへの協力も盛んで、Ruby アソシエーション認定システムインテグレータにも名を連ねている。社員の教育にも Ruby 技術者認定試験制度を利用しており、Ruby 初学者にはシルバーの合格を目標にさせているという。

アールラーニングは顧客に対してシステム開発を提供する SI 企業であり、状況に応じて様々なプログラミング言語を使い分けている。鈴木氏にとってプログラミング言語の重要な役割はアイデアを実現する「ツール」である。「新月」プロジェクトの成功によって、Ruby on Rails による開発に限られた時間の中でアイデアをブラッシュアップしていくのに適していることは確信できた。現在は、次に出すサービスのアイデアを幾つもの温めている最中であり、それは Ruby on Rails で作る可能性が高い、ということである。

参考写真

会社名	株式会社 新月
会社名・カナ	ツングツツ
法人番号	111-1111
住所	東京都港区西麻布2-11-5 WPCO 405 3F
電話番号	03-6457-7021
FAX	03-6457-7022
設立日	未定

会社情報検索



情報提供：一般財団法人 Ruby アソシエーション

Ruby アソシエーションは、Ruby の普及と発展を目的として活動する組織です。

所在地：〒690-0003 松江市朝日町 478-18 松江テルサ別館 2F

TEL 050-5532-6886

設立：2011年7月27日

事業内容：開発支援事業、コミュニティ支援事業、情報発信事業、Ruby 技術者認定試験事業、Ruby 標準規格保守事業

URL：<http://www.ruby.or.jp>